

422

高齢者や外国人等の災害弱者の減災・避難支援のための「やさしい日本語」による情報発信

取組主体【掲載年】	法人番号	事業者の種類【業種】	実施地域
アップルウェーブ株式会社 【平成 29 年】	5420001009679	インフラ関連事業者 【情報通信業】	青森県

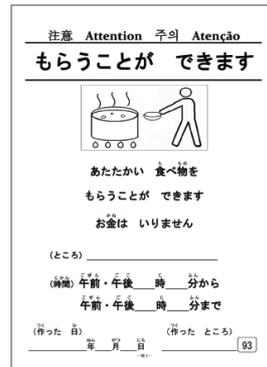
1 取組の概要

- 平成 14 年 4 月に、弘前市のコミュニティ FM 放送局アップルウェーブ株式会社は、弘前大学、弘前市役所、NPO キャストと連携して、「災害発生時に、必要な情報をわかりやすく伝えるにはどうしたらよいか」を考える“減災のためのやさしい日本語研究会”を立ち上げた。同局では同研究会監修のガイドラインを基本に、ラジオ放送番組「やさしい日本語で伝えたい暮らしの情報ランド」を毎日放送している。
- 同番組は、高齢者の方や弘前に来て間もない外国人の方に向けて、災害情報や身の回りの防災に関する情報を簡単な単語を使ってゆっくり、はっきりと伝える。この他にも「防災士の安心ワンポイント」、「ひろさき防災カルテ」、「ラジオで聞く 防災ハンドブック」といった防災関連番組が充実している。

2 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）

やさしい日本語で避難情報を発信する

- 阪神・淡路大震災では外国人被災者も多く、日本語や英語では避難情報や救援情報を十分に伝えることができていないことがあった。同様のことが新潟中越地震でも発生したことを踏まえ、発災直後であっても、外国人被災者に適切な情報を的確に伝えることを目指し同会が発足した。同局は、この成果を活かし、災害時には、小学校 3~4 年生レベルの易しい漢字とひらがな、カタカナで表現される「やさしい日本語」での放送を行っている。
- 具体的には、「停電」といった難しい熟語を避け「電気が使えません」といった表現を採用し、避難情報や救援情報を発信することとしている。開始当初は毎分 280 拍でやっていたが、試行錯誤の末、現在は NHK のニュース読み上げ速度よりも少し遅い毎分 380 拍の速度で発話し、聴き取りやすいラジオ放送としている。



▲「やさしい日本語」を用いた掲示物の例

防災ハンドブックを音声で説明し、高齢者にも分かりやすく災害時の対応方法等を情報提供

- 同局ホームページ上でやさしい日本語の音声ガイドを提供しており、画面に表示される再生ボタンを押すと、だれでも、やさしい日本語を聴くことができる。また、防災ハンドブックの説明をやさしい日本語で聴くことができ、目で見ることが困難な高齢者等にも配慮されている。

3 取組の平時における利活用の状況

- 同局は、本業であるラジオ放送においても、「やさしい日本語」を市民に広く普及させるための新たな取組として、「やさしい日本語で伝えたい暮らしの情報ランド」という番組を毎日放送している。開始当初は、通常の発音に比べてゆっくりしたスピードで、リスナーが聴き慣れないことなどが理由で、聴きづらいといった意見も一部から寄せられたが、「やさしい日本語」を普及させたいという強い熱意と、アナウンサー研修や試行錯誤を重ねた地道な放送の継続によって、市民の間でも浸透しつつある。
- 同局は、平成 12 年 3 月に県内 4 番目のコミュニティ FM 局として開局され、「地域の防災」を理念の一つに掲げ、開局以来様々な災害現場取材し、市民に情報提供するなど、弘前市を中心とした聴取可能人口 40 万人に情報発信している。スタジオのある同局本社は、自動自家発電装置を設置し、一部を避難所として開放するほか、災害時に緊急放送を外でも聴くことができるような施設にしている。

4 取組の国土強靱化の推進への効果

- やさしい日本語による放送によって、リスナー層が拡大している。高齢者のリスナーからは、ゆっくり話しているので、内容を全て理解できた、全部の単語がわかったといった意見が届いている。また、ゆっくりとした放送によって暗記するくらい頭に残り、考えながら聴けることでよりいっそう理解できるといった意見も寄せられている。
- 日頃から防災士のコーナーがあるが、防災士から防災に関する情報が得られるので「いざというときに FM アップルウェーブを聴こう」という気持ちになっているといった声が届いていることから、リスナーの防災意識向上に貢献している。

5 防災・減災以外の効果

- 番組での情報発信のほかに、同社は前述の防災ハンドブックで携帯ラジオを常備し、いつでも聴けるよう呼びかけを行っており、同社の掲げる防災 7 カ条の第 1 条は「毎日ラジオを聴こう！ 万一の時もまずラジオ！」となっているなど、ラジオ放送を主軸にした内容とすることでラジオリスナーの拡大につながっている。

6 現状の課題・今後の展開など

- 地域の災害時、様々な情報がある中でどの情報を流すのかの選択が重要と考えられるため、今後も日頃からのシミュレーションや、リスナーへの啓発を行っていく。

7 周囲の声

- アップルウェーブ株式会社の取組は、やさしい日本語をはじめ、防災の基礎情報を分かりやすく提供しており、大変意義のあるものだといえる。雪下ろしの注意事項、防災訓練や講座の案内などの発信も行っており、市民の安全な暮らしに寄与している。(地方自治体)